

# 地域ぐるみの教育を、本気で語り合うワークショップ

廣田 貢 氏



## KJ 法によるグループ別討議

### 約束

真剣になりながら子どもたちをどうしていくか考える。お互いがお互いを認め、意見や視点の多様性を楽しむ。

90 分で 5 つのワークは多いが、がんばって成果を出してほしい。

- 1 未来のタネ探し
- 2 未来イメージの共有
- 3 実現に向けたチームイメージの共有
- 4 成行き未来像の共有
- 5 今打つべき一手

まとめは、木村参事官にお願いする。

会場全体のフィードバックとして、全部の団体に発表をお願いしたいところだが、時間が限られているので、4,5 グループに絞る。

### 未来のタネ探し

課題探しよりも、いまできているすばらしいこと。これから大切にしたいこと。

水をやり肥料をやることによってさらによくなること。いいところ探し。

### 未来イメージの共有

未来のタネを育むことで、目指していきたいビジョンの共有。

### 未来を実現するためのチームイメージの共有

目指していこうとするもの。どんなふうになるのか。

チームの名前を最後に考える。さらに、チーム員の名前も。

### 成行き未来像の共有

未来のタネを放置した場合の成行き未来像を共有

最悪の未来を議論する。

島根県の高校の例、本気でできた理由。最悪の危機を共有したため、自分たちの置かれている状況を客観的に理解できた。

### 今打つべき一手

そうならないために、いまどうすればいいか。

1 つの枠が 15 分程度。思いついた言葉を貼っていく。

全体のルール。

貼り方 未来のたねを一番上に、一番下に成行き未来像を描く。



## 廣田氏のコメント

語り合う場を持ち帰っていただいて、熟議をしてほしいと思っている。共有するのは、「好き、愛」という言葉。地域への愛着、ほこりなどのことである。

熟議・協働・マネージメント、一番大切なのは熟議。しっかり熟議して持続可能な未来を作る—どうやってつくるか。東京フォーラムにおいて、議論した。

**1 分かち合う。** 思いを表に出していく。話し合いの場を

**2 育ちあう。** 思いだけではなく、大人も子どもも学びあう。大人の背中をみながら地域に愛着をもつ子どもたちが育つ。

**3 積み重ねる。** 成功体験を積み重ねる。次の一手は難しいが、だけど必要。小さな成功体験を積み重ねることで、成功へ。

**4 つなぐ。** どうやって思いを分かち合い、引き継いでいくか。子どもたちが、次の世代にどうつないでいくのか、そのためには、学校と地域の協働が必要であると同時に、そのための熟議も大切。

コミュニティ・スクールをすすめていくにはどうすればいいか、疑問に思っていることなど質問をして会場全体で疑問を解決してほしい。

## 事前の質問

A: 宇和島市で事務職員をしている。本日は、同じ立場の人と参加した。貢献の仕方がわからない。事務職員として関わりたいと思っているが、現実にはかかわっていない。どのようなところからかかわればいいのか、知りたい。また逆に、関われない発想になるのはなぜか。

B: わたしの地区では、全部の学校に事務職員がいない。一つの学校に 5, 6 人の事務職員がいて、週に 1 度しか自分の学校に行けない。コミュニティ・スクールを始める学校もあるが、そのような状態でどうかかわればいいのか。

木村: 地域全体を俯瞰していかなくてはいけない状況。個々の学校に張り付いていないぶん、協働で実

践できるのでは。個別にいる方は、一人ではなにもできないと感じている。このような会に参加するとかして、理論的には広がっていかなくてはいけない。管理職等に理解をしていただいて、地道にする。仕事の範囲を広げて、めげずにやっていくしかない。

具体的に、すすめられている方に知恵を出してほしい。

C:徳島県から参加している。事務職員である。コミュニティ・スクール 9 年目、財務で当初からかかわっている。いっぱいかわることがある。地域等とのつながりをうまく調整できる。人と人、お金、情報をつなげることができる。周りの理解も必要。業務をかかえているので、業務改善と意識を変えていく必要がある。運営協議会にも参加させてもらっている。協議会に参加させていただくことが大切。コミュニティ・スクールの実践例を知りたい。

コミュニティ・スクールの承認、教育課程の推進、特色をもってどうやってできるか。校長先生に聞きたい。愛媛の CS マイスターの西村先生どうか。

西村：特色ある教育課程。外部人材の活用が容易に行えるようになる。地域の適材にも打診できる。特色ある教育課程は鬼北町のみ。運営協議会のメンバーは、他の会議等と同じ人材であることが多いので、公民館事業とタイアップして、ものづくり講座等を開催すればどうか。中学校の技術過程の授業を親と一緒にしたことがあった。親が子どもに教えてもらったりしてとてもよかった。地域の実情に応じてどのような形でできるか。コミュニティ・スクールをすることで、地域の実情に応じて、様々な取り組みができる。

廣田：社会に開かれた教育課程、物的、人的資源も生かしていく。教育課程の中でも話し合う。

D:現在および今後も人事権の在り方について知りたい。教職員の任用の権限、加配、財源支援等

西村：運営協議会が、「このような人がほしい」という場合、コミュニティ・スクールを導入する場合は、加配ができる。運営協議会は教育委員会の下部組織、学校に負担がかかるのはおかしい。地域のマイスターに聞いてほしい。財政は、文科省等の助成金に応募していただいたりして工夫してほしい。

廣田：コミュニティ・スクールを進めたいが、不安に思っていること等あれば聞きたい。

E：自治体がすすめようとのことだったが、町が無理解であったり積極的でなかったりするところが多い。統廃合があったため、いい機会と思い進めようとしたが、行政に理解がなかった。どこまで、県教育委員会がしてくれるのか、聞きたい。

木村：コミュニティ・スクール自体、全国で 10%ほど。全国を回って啓発している。できれば、県教委を通じていただければ、可能な限り出向く。すべての小中学校で、運営協議会をしてほしい。声をあげていただければ、行くことができる。

廣田：埼玉県は全市町村しないといってきた。それでも、何回か足を運ぶうちに、県教委を通じてではなく、ダイレクトに市町村から話があった。埼玉県教委はその声があがって、やっと、「やってみたい」ということになった。地道な活動が実を結ぶ。

地域の側で何かあれば。元気広田村を考える会の方はどうか。

F:学校の統廃合が進んでいる。広田で一番大きな小学校区にいるが、15 人のうち、山村留学が 13 人。何年か先には小学生がいなくなる。持続可能な小学校を作りたいという思いで統合したが、この先どうするか。地元がバックアップしている。広田には 3 つの小学校があるが、同じように支援していけるだろうか。システムの 1 つとして、コミュニティ・スクールを考えている。ビジョンをもってすれば、今までできていたのだから

できるだろうとも。また、このような勉強会があればできるような気がする。コーディネーターはどんな人がいいのか。公民館主事を活用してもいいのか。

西村：お願いするのは、どこに配置するのかということ。学校であれば、外部人材の活用。あるいは、事務職員の活用等。いずれにしても、地域によってあり方は違うので、愛媛型の学校運営協議会を検討してほしい。

## **全体発表**

隣同士のグループでお見合いをする。

一斉のアピール 3分で相手の発表を聞いた後拍手。

その後、すべてのグループの前で発表する。

## **全体発表**

じゃんけんで代表チームを決める。勝った4チームが発表する。

### **1 チームサステイナブル**

故郷を学ぶ、持続可能な、ポジティブシンキング

新しい発想 協働事務室。事務の先生になにができるか。親への意識付け  
未来は、地域の実態を知る、熟議、学校、地域および協働事務室。

### **2 チームなだパンマン**

未来のタネ、地域の自慢、子どもの自慢。子どもたちを取り巻く地域の教育力、立場の人材。高齢者も子どもにかかわる。自然環境。

地域を好きな子、関わり続ける子。交流の未来像。

最後に、夢や希望。

仲良し、お互いを知っている。熟議をして実践の場。チームのためには、マンがいる、正義の味方アンパンマン、どんな人でも顔が変わってもいい。行政も参加して。

### **3 チーム おらが学校**

目的。情報、学び、あいさつの地域がある。学校も地域に、地域も学校を考えている。未来イメージは、横のつながり、多様さ、前向きな子供をめざしていかなくてはいけない。サポート、融合、協働がキーワード。学校の消滅、孤立、地域文化の崩壊。打つべき一手は、学校と地域の協働力。コミュニケーションの場の設定。教育の地産地消を目指して。

### **4 チーム お茶の間**

連携登下校等の安全安心、活動の協力体制。未来は、自分が好き、人が好き等、自己肯定感、

地域を愛することのできる子。思いやり、やさしさのある子

自分自身をもてない、無関心な社会、世界がトランプかするそうあってはいけない。

イメージとしては、夢がある楽しいことがある、熟議ができる関係、しゃべりば、語り合う場がある。お茶の間を大事にしていこう。話し合うのは家庭。家庭での話し合いの場、地域学校での話し合いの場を大切にしていこう。

### **木村：総括**

都道府県の駅伝大会、愛媛県は5年前46回、去年40位、今年は30位だった。確実に順位が上がっている。前のランナーが次のランナーへタスキをつなげる駅伝大会。リオデジャネイロ五輪でも、日本のランナー一人ひとりの能力は他の国に比べると劣っていても、チームとして相乗効果をだして成果を上げた。やれそうもないと諦めるのではなく、もしかしてできるかもと、それぞれの持ち場へ戻ってやっていってほしい。最初の一步、前に出ていくと、どんどん進む。すべては子どもたちのために進んでいってほしい。

### **終わりに 讃岐 幸治**

子どもの問題を学校がまる抱えしている。風呂に入れられないだけ。ものすごくたいへんである。先生方は自己責任で、地域は空洞化。家庭は、核家族化でばらばらである。親戚や地域のおじさんおばさんがいなくなった。子どもは大変になっている。家庭の問題については、「おやじはだめだけど、親戚のおじさんは話が分かる」というようなところで、うまく回っていた。チャンドラーは、人生はタフで優しくないといけないという。子どもたちは、地域の人とかかわってどう生きるか。生活体験が欠落している。－過失・危険・苦勞・決断・貢献－か・き・く・け・こ力欠落である。

地域を調べて地域に学んで地域をどうするか。創るという子どもをつくる。アクティブラーニング。どのように老舗を作るか。知の循環。スクラムを組まなくてはならない。



